

1. 研究主題

対話を通して自ら考え、主体的に学ぶ子

～ 国語科・算数科を中心にして ～

2. 主題設定の理由

昨年度は、子どもたちの主体的・対話的な学習をめざして、「交流」と「単元構想」に視点をおいて実践に取り組み、単元の中での交流の位置づけや交流の視点を意識して研究を進めてきた。

「交流」では、単元の中で教師が意識し、交流の前に子どもたちが自分の立場をはっきりさせたり考えを持てるような手立てを考えたりすることにより、意欲的に交流する姿が見られた。また高学年では、友だちとのやり取りを受け入れて自分の考えを再構成することもできるようになってきた。しかし、交流が発表で終わったり、話し合いの視点からずれてしまったりする子どももいた。そこで今年度は、さらなる適切な交流の場の設定の吟味、教師の関わりやコーディネート力の向上を目指して研究を進めたい。そして、子ども同士が協働し、自己の考えを広げ深めるための対話的な学びにつながるようにしたい。

「単元構想」では、児童の実態と教材の特性を照らし合わせてつきたい力を明確にし、交流場面を工夫してきた。それにより、教師は単元の中で意識しながら授業にむかうことができ、単元を見通してつきたい力を明確にする重要性を感じた。そこで今年度も、児童につきたい力を明確にした学習計画づくりを行い、単元構想シートを活用していきたい。その際、より具体的な児童のめざすゴールの姿をイメージし、学びの自覚につながる振り返る活動の充実に取り組み、そして、主体的な学びができる児童を育てていきたい。

3. 研究の重点

(1) 主体的・対話的で深い学びのある授業づくり

①対話的な学び：自己の考えを広げ深める交流

- ・単元を見通した適切な交流の場の設定
- ・多様な考えを引き出したり、個々の考えを深めたりする教師の関わり

②主体的な学び：学びの自覚につながる振り返る活動

- ・単元を見通してつきたい力を明確にした、学習計画づくり・単元構想シートの活用
- ・自己の成長を実感できるような、学びに対する「振り返り」

(2) 対話力の向上

① 「聴く」 6つのポイントの徹底

- ・聴くポイントを明確にして聴き手を育てる
- ・授業の見る視点を共有して授業交流を行う
- ・児童に自分たちでポイントを振り返らせる

② コミュニケーションの6つのポイントの提示

- ・スマイル
- ・アイコンタクト
- ・クリアボイス
- ・ジェスチャー
- ・リアクション
- ・ポスター

③ つなげて「話そう」 つなげて「聞こう」の系統的な指導

- ・発達段階に応じた、対話力向上のための系統表を作成し、取り組む
- ・友達と、先生と、いろいろな人と、対人とのつながりを意識させる

④ 表現活動の工夫（全校集会での音声発表：英語の表現活動含む）

- ・名文詩文の暗唱
- ・教科等（国語・総合・生活など）で学習した内容での発表
- ・外国語活動・外国語で学習したフレーズや歌を使った発表

(3) 「振り返り」の充実

① ふり返りのポイント作り

- ・**自**分の成長
- ・友達との**交**流から
- ・**主**体的な学びへのつながり

} 児童の言葉で、3点を意識した掲示を作る

② ふり返りのポイントの与え方

- ・本時のねらいに応じ、目標達成を見取ることのできるようなポイントを与える
- ・「つけたい力」と「ふり返りのポイント」を対応させる

③ 「振り返り」を活かす場の工夫

- ・学習内容の確認と次への意欲や問いを共有する場の設定（授業始めに）
- ・学んだことを活用する場の設定（授業や単元終わりに）

④ 目標とめざすゴールの姿を意識した「振り返り」の活用

- ・本時末、単元末に期待する児童の振り返りを指導案に明記する
- ・単元末に児童に振り返りを書かせ、それをもとに指導内容等を振り返る

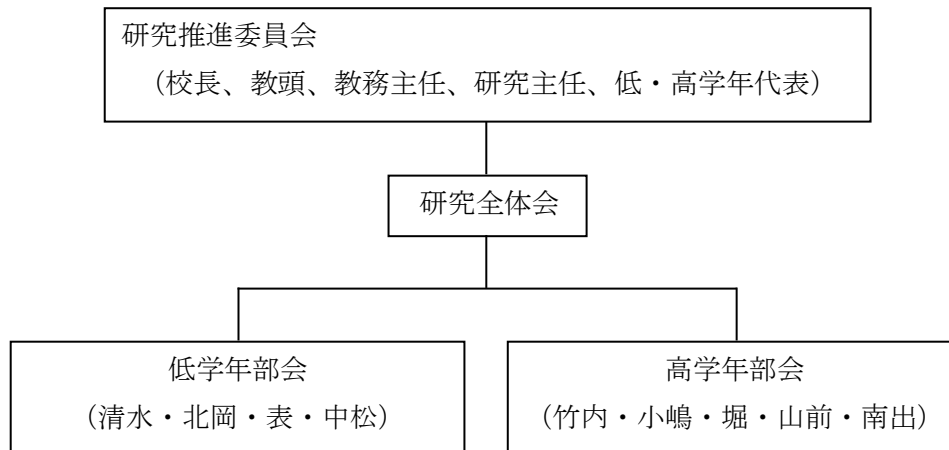
「聴く」 6つのポイント！

「反応」は友だちへの「応援」

- ① 自分の言葉で**反応**する
- ② **繰り返し**言えるように聴く
- ③ **続きが言える**ように聴く
- ④ **大切な言葉（キーワード）**が言えるように聴く
- ⑤ 自分の考えと**比べながら**聴く。
- ⑥ 分からないことを**質問**できるように聴く。



4. 研究組織



○研究推進委員会（プロジェクト会議）

- ・研究推進のための原案作り（理論作り，研修会の企画など）や研究の方向や進め方を提案し，各部会の連携を図りながら実践を進める。

○研究全体会

- ・全体協議の場で，研究の進め方について共通理解を図り，研究の方向性を決定する。
- ・模擬授業，研究授業の指導案検討，授業整理会などを行う。

○各部会（低学年・高学年）

- ・教材研究，児童の実態把握，指導案の検討をする。
- ・研究の重点を具現化するための手立てや工夫を考える。
- ・学習後，指導案の手直しを行う。

5. 研究の方法

- ①研究推進委員会が中心となり，各部会との連携を図りながら実践を進める。
- ②全体会・研修会を開き，共通理解を図りながら進めていく。
- ③一人1研究授業（全体研究授業または部会授業）を行い，実践を深めていく。
授業前に「模擬授業・指導案検討会」，授業後に「整理会」を行う。
- ④日頃から授業を見合う機会を持ち，日々研鑽する。
- ⑤他校視察を行い，指導に生かしていく。
- ⑥講師を招聘しての研修会を行う。
- ⑦小中・小小連携を意識した研修会を開催する。

6. 研究計画

* 研究授業計画に沿って，指導案検討等を入れる

	月	内 容
一学期	4	全体会（研究の基本計画の決定，重点・掲示物の共通理解）
	5	6年児童によるモデル授業（研究の重点，振り返り） 提案授業（6年，指導案について）
	6	
	7	各部会（1学期の取り組みについての振り返り）
二学期	8	全体会（1学期の振り返り及び2学期の方向性について） 各部会（2学期研究授業の指導案検討 等） 全体会（指導案検討・模擬授業 1年・5年）
	9	
	10	計画訪問 研究授業（5年）・授業整理会
	11	
三学期	12	各部会（2学期の取り組みについての振り返り，研究の成果と課題）
	1	全体会（2学期の振り返り，研究のまとめ・今年度の成果と課題）
	2	全体会（今年度の総括及び次年度の方向性について）
	3	全体会（次年度の研究準備）

研究授業計画

学年	1年	2年	しいの木1	3年	4年	5年	6年
授業者	清水	北岡	表	中松	竹内	堀	南出
月	11月	7月	9月	11月	6月	10月	5月
教科	国語	算数	国語	算数 (初任研)	国語	国語 (計画訪問)	算数 (提案授業)